

2022. 7. 15

例年より早い梅雨明け、その後の猛暑。セミの音が谷津に響き、トンボが飛び交い、にぎやかな里山の夏がやってきました。林縁に咲くヤマユリが遠くからも目立って一服の清涼剤です。ホタルの飛翔を楽しみに熱中症に気をつけながら、旺盛な雑草と対峙する日々です。



夏の風物詩 咲き誇るヤマユリ。独特の香りが漂っています。



シオカラトンボ



オオシオカラトンボ



ナツアカネ



アキアカネ



マユタテアカネ



ノシメトンボ



里山の夏 暑さに負けず頑張ってます



ユウガギク



ダイコンソウ



オオカモメツル

<季節メモ> ハイケボタル

猛暑の夜はホタル狩り。日本に 50 種ほど生息するホタルのうち、成虫が光るホタルはゲンジボタル、ハイケボタル、ヒメボタルの 3 種で大半は光らない、陸で暮らすホタルです。堂谷津の里で見られるホタルはハイケボタルです。ハイケボタルは、湧き水が浸みだす湿地を好み、幼虫のエサはカワニナなどの貝類や水生昆虫です。湿地で過ごした幼虫が成虫になるためにはそこから連続した柔らかい土の畔や土手が必要です。

夏の夜の幻想的な光景

ハイケボタル
水生ホタル。光は雄と雌の愛のシグナル。1 週間ほどの命です。

クロマドボタル
陸生ホタル。林縁のやぶの中で幼虫が光を放っています。

ホタルの発生状況は、天候の影響で変動します。時にはとても少なくなります。自然の姿として見守ることが大切です。

観察は 7 時半から 8 時半ぐらい、月が出ていない暗闇がベスト、風のない蒸し暑い日が最適。7 月中旬から、8 月初旬ごろ、天候を見て出かけるとよいでしょう。

ホタル観察のマナー

- ・ホタルに懐中電灯を当てないように。
- ・ホタルは採らないで大切に。

写真・編集：書間